

聞く/聴く

FMラジオを聴く

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S
SMH5を除く

20S、10U、10C、SMH5-FMはFMラジオ機能を搭載。BGM代わりに音楽番組を流すだけでなく、旅先の地元のFMラジオ局の番組を聞けばご当地情報もキャッチできる。また、渋滞などの交通情報を画面を見たりすることなく耳から得られるのも、走行中にはとても助かる。



音楽を聴く

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

スマートフォンにイヤホン差して聴いている音楽も、インターコムを使えばワイヤレスで楽しめる。もちろん再生・停止や頭出しといった操作も可能だ。セナのインターコムは音質にもこだわっていて、低音から高音まで豊かなサウンドをステレオで楽しむことができる。



Siriを使う

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

iPhoneに向かって質問するだけで、アプリを起動したり、電話帳を呼び出して電話をかけたり、インターネット検索ができる「Siri」。このSiriも、インターコムのマイクを通じて呼び出すことができる。走行中にSiriの助けがあると、画面を操作する必要がないだけに便利だ。



ナビやレーダーの音声案内を聞く

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

ナビやレーダー探知機がBluetooth対応なら、それらをインターコムに接続して、ナビの音声案内やレーダー探知機の警告を聞くことも可能だ。A2DPのナビではオーディオマルチタスクでバックに聞こえ、HFPは切替わる。メーカーによっては対応しないものもある。



会議機能で話す



3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

20Sや10C、10U、SMH10に搭載された「会議通話」機能を使えば、自分のインターコムにかかってきた電話をもう1台のインターコムに中継する形で、電話の相手と2台のインターコムの3人で通話することができる。この機能を使えば、別に走る仲間と電話で連絡を取るようなときに、一緒に走る友達とその通話を共有できる。

聴きながら話す



3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

「オーディオマルチタスク」を搭載した20Sであれば、お気に入りの音楽をバックで流したまま、仲間とのインターコム通話が楽しめる。また、ナビの音声、FMもバックで流すことができるため、仲間と通話中に音声案内が聞こえなくて、分岐点を曲がり損ねるといったこともない。バックで流れる音の大きさを一時的に下げることが可能だ。

外から見えない

ヘルメット内に収まる隠せるインターコム



3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

従来のヘルメット外側に取付けるインターコムから、ヘルメット内側に本体を収めてしまうインターコム。シンプルさを追求し、会話を楽しむことができるオープンフェイス用の3S-Bとフルフェイス用の3S-Wの3シリーズと、指定ヘルメット専用設計で本体が収まる10U。ヘルメットのデザインを損なわないスマートさが魅力だ。

撮る/録る

GoProで音声も一緒に録る



GoPro HERO3+/4対応のバックパック。インターコムの音声をGoProの映像と同時に録音できる
GP10 価格:1万5552円〜 最大通信距離:100m

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

走行中の映像にカメラのマイクが拾った風切音やエンジン音が流れる車載カメラの動画は旅の記録に最適だ。そんな車載カメラの中でもGoProならBluetoothバックパック「GP10」との組み合わせで、映像にインターコムの音声を重ねて録音できる。自分達の声が入った車載映像は、旅の記憶をさらに鮮明に蘇らせてくれるだろう。

気になった場所で写真撮影できる



3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

10Cの写真モードを使えば、動画だけでなく3.5Mドットサイズの写真撮影ができる。ボタン操作でシャッターが切れるだけでなく、1回の操作で5枚連続の写真が撮れるバースト撮影や、一定間隔で自動的に写真を撮影するタイムラプス撮影も可能。ヘルメットに付けた10Cなら、自分の見たままを撮ることができる。

無線で話す



SR10 価格:2万7216円
無線機のほかナビやレーダー探知機を有線で接続可能。さらにBluetoothで電話も接続できる

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

昔からバイク間のコミュニケーション手段として使われている無線もインターコムと組み合わせることができる。無線機のスピーカマイク端子をセナの双方向無線機用アダプタ「SR10」に接続すれば、インターコムで送受話が可能だ。SR10はスマホ程度のサイズなので、ハンディトランシーバーであればバイクから離れても使える。

クルマと話す



BT10 価格:2万4948円
最大通話人数:4人
同時通話:4人
最大通信距離:350m
本体にマイクが付いたハンディ型インターコム。ハンズフリーとしても使えるなど仕事などに最適

3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

インターコムはバイクのためのものとは限らない。例えばバイクとクルマと一緒に走るようなときに、クルマのドライバーがバイク用インターコムを使うのはムリがある。そんなときには「BT10」を使うといい。ドライバーが胸ポケットにBT10をクリップしておけば、ハンズフリーでバイクのインターコムと会話ができる。

アンビエント機能で話す



3シリーズ 5シリーズ SMH 10 10C 10U 20S

20Sには口元のマイクとは別に、本体に周囲の音を拾うマイクが付いている。そしてホルダー下面のアンビエントボタンを2度タップすると、そのマイクが集音した音が両耳のスピーカから流れるアンビエントモードが作動する。これを使えば、ヘルメット越しには聞き取りにくい料金所などのコミュニケーションがスムーズになる。